

# 海東小学校だより

第15号  
令和6年1月19日  
宇城市立海東小学校  
発行 校長 中村

## 後期後半がスタートしました！

新しい年を迎え、子ども達も決意を新たに、後期後半がスタートしました。  
1月1日に発生しました令和6年能登半島沖地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。そして、被災された地域・皆様方の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。冬休み明けに集会前に、全員で黙祷をささげ、「今自分たちでできることを一生懸命取り組んでいきましょう」と話しました。被災された方々へ心を寄せつつ、当たり前前の日常のありがたさを感じながら一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。今年もよろしくお祈りします。

以下、冬休み明け集会の内容を、簡単にお知らせします。

### ◇新年の目標 目標の達成に向けて ~植田直通先輩のメッセージから~◇

「1年の計は元旦にあり」といわれます。夢や目標を持って物事に取り組むことは、より高いパフォーマンスを発揮できることだけでなく、自分の秘めた力（可能性）を引き出すことにつながります。そして、その夢や目標の達成に向けてどう取り組んでいくかが、とても重要だと私は考えています。そこで、今回はこれまでに「先輩から学ぼう」で紹介してきた、「網田くん・網津くん・緑川くん」の中から、緑川くんこと鹿島アントラーズの植田直通選手に、海東小の子ども達へのメッセージを依頼しました。植田先輩は、サッカーの元日本代表でワールドカップにも出場している選手です。「自分の夢を実現するためにどんなことを大切にして頑張ってきたのかを、小規模校という同じ環境で目を輝かせて頑張っている海東小の子ども達にメッセージをお願いしたい」と依頼しました。以下紹介（一部要約）します。



海東小学校の皆さん、こんにちは。鹿島アントラーズの植田直通です。僕は、宇土市の緑川小学校という学校を卒業しました。僕がいたその緑川小学校も、皆さんと同じで人数の少ない学校で、みんなが知り合いのような学校でした。僕はその時から、プロサッカー選手になりたいと強く思っていて、こういう少ない学校でも自分の夢であるプロサッカー選手になるために、日々の練習をしっかりと頑張っていました。その時に、いろんな人に支えられて今の僕があります。今でも大切にしていることは、まわりの人に感謝をし続けることです。まわりの人がいたから今の自分があると考えています。プロサッカー選手としてだけでなくひとりの大人として、感謝する気持ちをわすれずにしていきたいと思っています。みなさんも、まわりの人への感謝の気持ちを大切に人生を歩んでほしいと思います。僕も遠いところからですが、皆さんを応援しています。

し合いました。「**人の力のすばらしさ・夢や目標を持つことの大切さ・達成に向けて努力すること大切さ・感謝すること大切さ**」等、それぞれに学ぶことができたようでした。右写真上部の2年生の頃の植田先輩の姿から、現在の姿を想像できた人はいなかったと思います。今、目の前にいる海東小の子ども達、同様に素晴らしい力（可能性）を秘めています。植田先輩からのメッセージを受けて、夢の実現に向けて努力することができる子どもが増えていくことを期待しています。

### ◇生活面 合志先生の話から◇

合志先生からは、「海東小からチクチク言葉を無くし、楽しい海東小にしていきましょう」と投げかけられました。人権月間の取組の一つである、「ありがとうの木、頑張っているねの木」を紹介されました。学校だより11号で紹介した際にはまばらだった葉も、今ではこんなにたくさんになっています。こんな優しい言葉が広がっていけば、みんなが楽しい海東小になっていくと思います。

#### ありがとうの木から

- ・登校班の時にみんなを連れて来てくれてありがとう。
- ・いつも、笑顔にしてくれてありがとう。

#### 頑張っているねの木から

- ・いつも自学を頑張っていてすごいね。歴史もがんばっていてすごいです。
- ・九九カードの1～9の段まで頑張っていてすごいね。



### ◇保健面 岩岡先生の話から◇

岩岡先生からは、冬休みの生活の振り返りとこれから頑張りたいことについてのお話がありました。特に、スマホの活用時間についての課題を投げかけられました。冬休み前に、「30分ごとに一度休憩をする」ことを確認されていましたが、課題①その目標がきちんと設定されていなかったことと、課題②使用時間が長時間になっていたことを挙げられました。いかがでしたでしょうか？長期休業中であり気のゆるみもあったとは思いますが・・・学年末のこの期間は、学年のまとめをするだけでなく、次の学年の準備をする大切な時期でもあります。気持ちを切り換えて取り組めるよう、家庭でも声かけをお願いします。